

植物ゲノム・遺伝子源解析センター 月例セミナー

とき 令和3年5月14日(金)
16時～17時

ところ **リモート開催に変更**

*入室時に氏名とメールアドレス登録が必要です。
右のQRコードか以下のアドレスにまずお入りください。



<https://kagawa-u-ac-jp.zoom.us/meeting/register/tZUtcuuqrzksG9R2eSPIAjCBdVCJfHREQjbV>

題目

「アプリコット色花シクラメンの花色発現機構」

講師

農学部教授 高村武二郎 博士

概略

花きにとって花色は最重要形質である。冬の代表的な鉢花であるシクラメン(*Cyclamen persicum* Mill.)の花色発現には、花卉細胞に含まれるフラボノイド系色素が最も強く関与している。

シクラメンの黄色花品種の主要花色素は、黄色花カーネーションと同じカルコン配糖体(カルコノナリンゲニン2'-グルコシド)である。カーネーションにおいては、花卉にカルコン配糖体とアントシアニンの両方が含まれるオレンジ色花等が報告されているが、シクラメンの黄色花品種では、底紅部分を除いて花卉中にカルコン配糖体とアントシアニンが共存してオレンジ色等の花色が発現したとの報告はない。

演者らは、黄色花シクラメンの花色遺伝の研究過程で、杏の果実のように赤みがあった黄色の花弁を持つ個体を見出し、その個体からいくつかのアプリコット色花系統を育成した。今回は、そのアプリコット色花系統における花色および花色素の発現、ならびに花色素生成関連遺伝子の発現に関する研究において、これまでに得られた知見について解説する。

主催：香川大学農学部 植物ゲノム・遺伝子源解析センター

(<http://www.ag.kagawa-u.ac.jp/phytogene/index.html>)